



# ミノルタ千代光会 会報 No.153

## 目次：No. 153

2021年度各地区総会報告	1
会員便り	2-3
会計報告	2
事務局からお知らせ	2-4
理事会便り	3
追悼の辞	4-5



《同封しています》  
**2022年度重要事項  
 お知らせの連絡先**

「太陽の塔」大阪万博が開催された1970年は私が入社した年です。日本全体が明るい未来を信じ世界へ大きく踏み出そうとする活気に満ちた時代でした。ニュータウンと称する大規模住宅地開発、都心に建ち始めた超高層ビル、拡張する高速道路、マイカーの普及等、急速に変わる時代の様相を太陽の塔はずっと見続けてきました。〔撮影 松山 創〕

2021年度の総会は、コロナ感染拡大により三地区とも対面での総会を中止。関西地区は理事会、中部・関東地区は書面により議案承認されました。

<p>＜関東地区会員の皆様へ＞</p> <p>2021年度関東地区(メール)総会のご報告</p> <p>総会についての異議申し立てはありませんでしたので、3議案とも承認されたことをご報告いたします。</p> <p>(補足)        2の事務局費は、関東地区に事務局員がおりませんので該当しません。</p> <p style="text-align: right;">関東地区事務局</p>	<p>＜中部地区会員の皆様へ＞</p> <p>2021年度関東地区総会承認のご報告</p> <p>総会に代わる議決事項の賛否確認を3月31日に締切りました。その結果、皆様の賛同により承認されたことをここにご報告いたします。</p> <p>ご賛同頂いた内容により令和4年度の運営を行って参りますのでご協力の程宜しくお願い致します。</p> <p style="text-align: right;">中部地区 代表理事 中村良裕</p>	<p>＜関西地区会員の皆様へ＞</p> <p>2021年度関西地区総会のご報告</p> <p>2022年4月19日の理事会において、2021年度・年度決算および活動報告と2022年度・年度予算および事業計画が承認されたことをご報告いたします。</p> <p style="text-align: right;">関西地区事務局</p>
---	---	---

権威者と知らずに自論滔滔と（川柳事始め）

関西地区会員 井上 昭

若い頃から川柳が好きで、会社帰りに大阪市内で開かれていた句会に通っていた時期もありました。その後しばらく句会から遠ざかっていたのですが、七年前、職場で知り合ったKさんに活動再開を勧められました。この時、Kさんの句が載った柳誌をいただき、臆面もなくコメントしていたのですが、後ほどKさんが川柳界の重鎮と知り、大きな穴を掘って入りたいほど赤面の至りでした。

Kさんとお話しているうちに川柳の魅力を再認識し、新聞や柳誌への投句を始めました。

しかし、これが本場に難しいのです。誰でも言うことであつたり、当たり前のことであつたり、新しさがなかったりすると、「そうですかそうですか」「だから何なの」と言われて終わりです。

「そうですか川柳」「だから何川柳」から脱却しようと、多読・多作・多捨を心がけるようにしました。最初は時事吟が多かったのですが、Kさんに指導いただき、日常の出来事、人間関係、自分の好きなことなどの中にある本音、本質、意外性、価値観、ユーモア、ペーソス等を句材にするように変わっていききました。

いい句材を見つければ八割方できたも同然と言われています。しかし、この時点で頭の中にあるのは散文です。十七音に調えるための格闘が始まります。滑らかなリズムに調っているか、効果的な言葉は他にないか、無理な表現になっていないか、テクニクに溺れていないか、句品を保っているか等いろいろな角度から推敲を重ねてやっと完成です。しかし、説明を加えないとわかってもらえないような句は論外、自然と湧き出る笑いや共感を誘えなければ佳句とは言えません。岸本水府をはじめとして先人の教えがいろいろあります。これは別に作家の井上ひさし氏の言葉「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」は、川柳作句にもあてはまる極意と考えています。

現在、月に五十句ほど作っていますが、その中で満足できるのは一句あるかないかで、川柳の奥深さをしみじみ感じていきます。

近詠から少しはましかなと思句を披露させていただきます。ご笑覧ください。

遠縁と会う日はいつも黒い服

おばちゃんは元気な声でああしんど

歯が立たず黄ばみと埃資本論

分水嶺海で会おうと水の精

明日こそええことあるとお月さん

紙と鉛筆があれば、いつでもどこでも楽しめる川柳。まだまだひよこの私ですが、川柳三百年の歴史の中に残るような句ができればいいなと大それた夢を膨らませています。



事務局からお知らせ

新入会員のお知らせ

今回は該当の方無し

【会員状況】

4月19日現在  
 関西地区 [503名]  
 中部地区 [212名]  
 関東地区 [65名]  
 合計[780名]

2021年度会計報告

2022年度予算

(単位：円)

	適用	21年度予算	21年度実績	22年度予算
収入		1,800,500	1,790,083	2,100,050
支出	総会補填費	0	0	0
	行事補填費	0	0	0
	高野山慰霊祭	700,000	587,472	700,000
	その他運営費	1,426,000	967,735	1,449,000
	支出合計	2,126,000	1,555,207	2,149,000
	繰越金		8,003,916	8,564,292

## おめでとうございます

田=中部地区会員  
圃=関東地区会員  
無印=関西地区会員

### <古稀>

2月 古塚 修田 四方 美智子 浦 秀樹田  
3月 山口 滋之田 木下 逸弘 松井 英幸圃  
4月 佐藤 登田 河合 正彦 加藤 隆祥田  
5月 至極 正晴 西岡 宗則

### <喜寿>

2月 岸 豊田 小田 巳一  
3月 岸 寿一 益田 一興  
4月 今井 正 宮本 勝 鈴木 宏文田  
西端 正行  
5月 長井 宏爾 野村 喜昭圃

### <傘寿>

2月 釣島 平三郎 太田 清田 古谷 幸一  
3月 成瀬 三代治田  
4月 今泉 東昭田  
5月 甲田 清泰 平澤 成躬圃

### <米寿>

2月 七五三 節男 高林 俊明田 大国護 昇吉田  
山口 周三  
3月 鈴木 三郎 久保田 勇 窪 猛

### <卒寿>

2月 白木 正  
3月 中川 昌  
4月 和田 藤朗 秋山 諄正圃  
5月 湯浅 和彦圃

## 理事会だより

### 2月理事会 (WEB会議)

- ◇2022年度予算案について
- ◇「事業所むかしいま」事業所選定
- ◇関西地区
  - ・2022年度予算案について
- 他

### 3月理事会 (WEB会議)

- (3地区合同理事会を実施)
- ◇会則(細則)の一部改訂について
- ◇2022年度予算案について
- ◇関東地区の理事交代の件
- ◇ウクライナ現地販売会社(BUR)への義援金の件
- 他

### 4月理事会 (WEB会議)

- (3地区合同理事会を実施)
- ◇2021年度会務報告
- ◇2021年度活動報告
- ◇2021年度会計報告
- ◇2022年度予算案審議
- その他



## 神戸市長田区で開かれた「和田幹司さんを偲ぶ会」報告

藤吉 修忠

千代光会会報152号にて和田幹司さんの追悼の辞(藤吉修忠投稿)が掲載されましたが、和田さんの地元である兵庫県神戸市の長田地区でも、地域のボランティア団体を中心となってコロナ禍で延期になっていた「和田幹司さんを偲ぶ会」が4月6日(亡くなられた昨年10月5日から満6か月)に開催されました。阪神淡路大震災における長田地区の「追悼と復興」事業に尽くされた和田さんを偲ぶ人々が150余人集まりました。旧ミノルタグループからも14人が参加しました。ミノルタでの和田さんの業績とお人柄は元専務取締役田嶋紀雄さんが冒頭に追悼の辞として紹介されました。

一方和田さんの地元では、和田さんが「追悼と復興」事業を進める中でふつふつと沸き上がった長田地区への愛情と誇りが、地域の方々に伝わり今や長田のレガシーとなっています。ミノルタのカメラも大活躍し、α-7000による復興の定点記録撮影枚数は2000枚にも上ると報告されていました。和田さんの記録はNPOに引き継がれ今後の災害復興の指針となるべく編纂される旨、遺影に誓われておりました。

ミノルタで活躍し仲間から愛された和田さんが、地元の長田でもこんなに慕われていた事に驚きを隠せません。「和田幹司さんを偲ぶ会」に出席し、あらためて和田さんの偉業に敬意を払いつつ心からご冥福をお祈りした次第です。(合掌)

会員  
便り



## 追悼の辞

新井 忠司さん

2021年12月18日死去

新井さんは1990年に三河瑞穂工場長として赴任され、96年に人事総務本部長として本社に戻られました。当時は隣の豊川工場のカメラ生産終了に伴う豊川地区の再編、新たな中国生産拠点石龍工場の立ち上げ、社内初めてのISO9000の取得等、以降の生産の方向を決める重要な節目の時期に有りました。

日常で印象に残っているのは、時間があれば現場へ出掛けて従業員に声を掛けておられました。特に加工と組立ての現場へはよく行かれ、昼休みに現場横の休憩コーナーで将棋を指されていたのを思い出します。席に戻られると我々からの情報も追加して個々人と話されたポイントを整理され、次回会った時にはそれらをもとに話し掛けられるので各人は少なからず驚いたと思います。また話される時に良く「凄いな」と「ほうか、ほうか」と云う間の手が入っていたのを覚えています。

話した人達は工場長が自分の事を覚えていてくれて、ポジティブな面を評価されて、尊重されている新鮮な実感を持つた事と思います。今でも新井さんに言われた一言を覚えていて人は大勢居られます。

私を含め工場スタッフは、リスペクトし合える集団は強くなれることを学びました。

新井さんが蒔かれたお互いの立場を理解し尊重し合うリスペクトの精神は生産現場に根付き、時を経て当時工場と子会社の生産部門を統合した三恵精密で実現された誰もが知恵を出し、進化し続ける生産形態や、中国石龍工場の関係者全員を巻き込んだ改善活動へと引き継がれ、花開いたと思っております。

これらを基盤にしてその後も進化発展し現在の海外生産に繋がっている事をあらためてお話ししたかったです。叶いませんでした。

以下に奥様のお許しを得て、昨年末に準備されたものが出される事が無かった最後の年賀状を添付いたします。

新井さんを偲びたいと思います。

(河野 盾臣)

## 謹賀新年

平素は格別のご高配を賜り 厚く御礼申し上げます

近況をお伝するの初めですが記します。  
一 妻七六歳 婿二人 孫四人 二十五から十八歳、みんな元気です。  
二 連層を機に、柴犬を家族に加えました。毎朝散歩に行っています。可愛いです。  
三 忠司少将全権手続完了。昨年の報告がんと前立腹がんと可哀いですが、  
七年前の少将全権手続完了。昨年の報告がんと前立腹がんと可哀いですが、  
四 メタカ分エールに大きな卵を毎年二つほど産みます。  
五、四百を越した賀状が百の十路続え、寂しくもあり嬉しいもあり

本年もよろしく願っています

令和四年 元旦



長谷川 吉加さん  
2021年12月19日死去

年始にご子息からの寒中見舞いのお葉書で長谷川さんのご逝去を知り、直ぐに特許部退職者有志にお声掛けしたところ多くの弔辞が寄せられた。最初の月命日に間に合うようにそれらをご遺族にお届けしてご霊前に手向けていただくことができました。

長谷川さんは、昭和40年代の特許部創世期から組織づくりに尽力され、多くの特許部員を育成されたので、長谷川さんを会社人生の師と仰ぐ人も多く、たちどころにたくさんの弔辞が寄せられた。弔辞には皆さんの熱い思い、心温まるエピソードが綴られていて、どの文章からも遠い過去のお姿が偲ばれて涙なしには読めなかった。

長谷川さんと私の関係は、私の入社した1974に始まる。直ぐに特許部に配属になった私は、以来長谷川さんの直接のご指導を仰ぐ機会が多くあった。特許部生え抜きの人々が異口同音に言うとおり、長谷川さんの指導は厳しく、新入社員達も配属されて直ぐに学生気分を吹っ飛ばされた。私にとっても会社人生で一番怖い上司だったが、仕事面では厳しくとも、会社時代は勿論、退職後も特別に大事にしていたことが有難く感謝に堪えない。

特許係争が活発化した時代に特許部長をされていたこともあって、他社との特許交渉などで良く一緒に過ごさせていただいた。東京出張の新幹線では親しく仕事を

## お悔やみ申し上げます

西前 久幸 2022年 1月23日

吉岡 宏 2022年 3月 8日

勝山 訓男 2022年 3月14日

離れたお話もさせていたのだが、本当に有益で楽しい時間だった。下戸な長谷川さんはいつも帰りの車中ではアイスクリームをご馳走してくださった。カチカチに凍ったカップアイスで二人で悪戦苦闘しながらいただいたことが懐かしく思い出される。

長谷川さんはいつまでも元気でいらつしやるものと信じていたので、ご逝去の報に接し急に自分の年齢を自覚するようになった。私も古稀を迎え、遠くない将来には高野山のミノルタ慰霊塔（合祀）で長谷川さんに再会できるかもしれない。そのときには「亀井く〜ん」と、またお呼びかけただけのことを期待しながら、今はただただ長谷川さんのご冥福をお祈り申し上げます。

（亀井 勝）

柴田 道輔さん

2022年1月1日死去

柴田道輔さん！いろいろなとお世話になり有難うございました。

柴田さんが千代田光学に入社したのは昭和28年3月で、歳は私より二つ上でした。記憶によれば彼は電気工事店で、私も別のところで少しの間働いていて共に途中入社でした。彼は整備班の配属となり、班長は吉田実さんでした。整備班は治工具など製作していました。

隣の部屋は総務で外波山・川村・

大石さんなどが働いており、のちに結婚することになる奥さんもおられました。私たち新入社員は暖房に使う薪をリヤカーで総務にもらいに行くことになっていました。ある時、薪を積んで戻ろうとしたら”余分に持ってゆくな”と怒鳴られピシヤッと扉を閉められた事など、入社当時の様子が蘇ってきます。

柴田さんも私も当時夜学に通い、彼は電気科、私は機械科で勉強しました。生き生きと伸び伸びとした青春真只中の楽しい良い思い出がいっぱいです。今思えば、その頃から彼はよく人の家を訪ね、人との交流を広げていた記憶が残っています。

また、頭脳明晰で色々な勉強をしていました。コンプレッサー、ボイラーなどの設備が入ると多くの国家資格を次々と取り、彼がいなくて工場は回らない程役に立ち、それは下請けも含めて同じでした。

仕事以外では、ボーイスカウト、詩吟、地区の役員など何でも来い、活躍の姿はまさにスーパーマン状態でした。私も彼を真似て「写真工業」のカメラ雑誌など購読したり、英会話も習って頑張りましたが諦めました。

遊びでは後藤義弘さんと三人で縄のれんに行き、新聞記者や著名人と酒を酌み交わしたことや、会社の仲間七人で松尾賢一さん、後藤さんの運転で寸又峡温泉に行った時には、入浴中に洋服を隠されたり、風呂の湯で一升瓶ごとカンして飲んだり、

また、冬、スケートに田口、諏訪に行けば田んぼの水は氷っておらず、残念ながら滑れず帰ってきたことも。そんな数々の思い出は今も皆の胸に焼き付いています。

棺桶の中の顔は生きていたそのまゝの顔でした。そちらに行ったらいいところを探しておいてまた連れて行ってください。

成仏してください。有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。

（中野 良）

吉岡 宏さん

2022年3月8日死去

3月10日元財務部の池内康さんから「吉岡宏さんは腎臓の人工透析を長年にわたり続けられてきたが、容態が急に悪化、3月8日に亡くなられた」というメールが届いた。

大学、学部も同窓で1963年入社。一年先輩の訃報である。腎臓の病と長く戦っておられたことは承知していたが、深い悲しみと名状しがたい寂寥感が襲ってきた。思い出は走馬燈のようによみがえる。1969年のある週末、吉岡さんと私は他の仕事仲間とミノルタコーポレーション（以下MC）ニューヨーク本社の会議室で、出来上がってきたばかりのカメラ新販売体制に、いわば「総合計画書」を巡って激論を戦わせていた。吉岡さんは、MCの財務部門、私はカメラ営業部門。粗削りな営業部門の計画を吉岡さんが合

理的に修正し財務3表にまとめた。この計画（案）をベースとして翌1970年の業界初全米オウンディスプレイビューション（メーカー直接卸売販売）がスタートすることになる。

これを機に吉岡さんに「財務諸表の見方」を懇切丁寧に教えて頂くことになる。後でどれだけ役立ったかお礼の言葉もない。吉岡さんはその後1972年に帰国し再度1975年にMCに駐在。1979年に帰国した後は財務部へ。乞われてミノルタ事務機販売の常務、そして定年後はミノルタ販売の監査役を務められた財務関係のオーソリティーであった。

吉岡さんの趣味はアメフト観戦と野菜作りだ。シーズンになるとプロフットボールを観戦、帰国してからも母校のアメフト観戦に。観戦していた私と競技場ではったり出会いアメフト談議を楽しんだこともある。またお悔やみの電話を多恵子夫人にかけて知ったことだが、透析治療を28年にわたり週3回うけていたが、そのことを一度も愚痴ることはなく、「仕方ないだろう」ですませていたという。その上スイスに二度も連れて行ってくれ、幾つかの日本百名山にも。優しく誠実な吉岡さんの人柄が偲ばれる。畏友吉岡宏逝く。安らかにお休みください。合掌。

（河野 明雄）